

2022

東京工業大学基金
活動報告書

Tokyo Institute of Technology Fund



Tokyo Tech

学長挨拶

「挑み続け、未来を創る東工大」

益 一哉 国立大学法人東京工業大学長



東京工業大学基金は、多くの皆様からの温かいご支援により、成長を遂げてまいりました。この基金を貴重な財源として活用し、教育・研究・社会連携・国際交流に関する様々な環境を一層充実できますことを心より感謝しております。

2022年度から、国立大学法人は6年間の第4期中期目標期間に入りました。東工大の中期目標、これを具体化した中期計画を策定し、これらに基づき教育・研究・ガバナンス・経営など法人としての活動を行っています。

また、中期目標期間の開始を機に、本学のこれまでの構想をもとにした戦略としてアクションパッケージを策定し、公開しました。特筆すべきは、これらの指針の中で「理工学の再定義」「科学技術の再定義」を掲げていることです。

変化し続ける社会の中で、大学の役割について私たちは常に見直し、考えてきました。理工学分野が日本の成長を支えてきたという自負はありますが、本当にその殻の中だけで将来を考えて良いのか。学術分野の分化・尖鋭化が進んだ現在、世界規模の課題解決に向けてこれまでの枠組みを再定義することによってさらに貢献できるのではないかと真剣に議論を重ねてきました。本学は科学技術による真理の追究と新たな産業の創出をミッションとしています。その実現に向けて、分野を超えた科学の統合により理工学を再定義することで科学技術の進歩を促進し、脱炭素社会、スマート社会、持続可

能な成長社会、人々がウェルビーイングを感じられる社会の創出を目指したいと考えるに至りました。

そのような背景を踏まえ、本学と国立大学法人東京医科歯科大学は、2024年度中を目途として統合し、1法人1大学となることに合意しました。

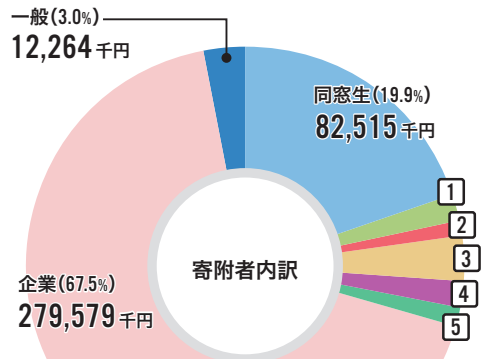
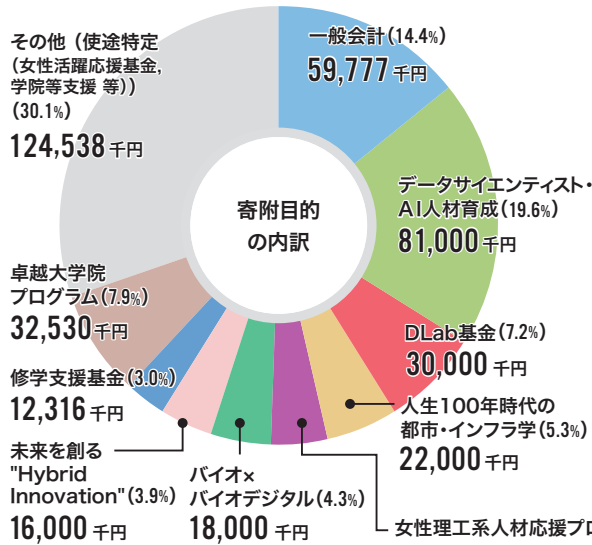
新大学の目指す姿として、「コンバージェンス・サイエンス」の展開を掲げています。歴史的に異なる複数の学問領域が融合し、単なる加算ではなく、収斂後に新しい学問領域を生み出すことで未知の課題を発見し、社会課題を解決していくアプローチをコンバージェンス・サイエンスと定義しています。従来の理工学や医歯学の枠組みを再定義し、新たな知の創造により、近未来の幅広い課題の発見と解決に貢献したい。連続的な成長と非連続の成長が融合することで、あるとき飛躍的な変化が生まれると考えています。そのようにして生まれたイノベーションこそが、日本に、世界に変革をもたらすでしょう。

このような本学の活動を通じた豊かな社会の実現に向けた取組を推進していくためには、財政基盤の一層の強化が必要であり、同窓生をはじめ、在校生のご家族、教職員及び企業等皆様のご支援ご協力が不可欠です。

本学のさらなる飛躍のため、引き続き温かいご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

受入額 414,161,154 円

2022年度の寄附金の受入額は、皆様からの温かいご支援により、約4億1千万円となりました。東京工業大学基金にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。



寄附者	金額 (千円)
① 同窓生のご家族 (1.8%)	7,480
② 在校生のご家族 (1.1%)	4,677
③ 蔵前工業会・団体 (3.4%)	14,065
④ 退職教職員 (2.1%)	8,675
⑤ 現教職員 (1.2%)	4,906

支出額 429,785,891 円

皆様からのご寄附は、右に示すとおり学生の修学支援や若手研究者支援をはじめとする諸事業に活用させていただきました。なお、国際交流に係る事業については、コロナ禍により厳しい状況となりました。

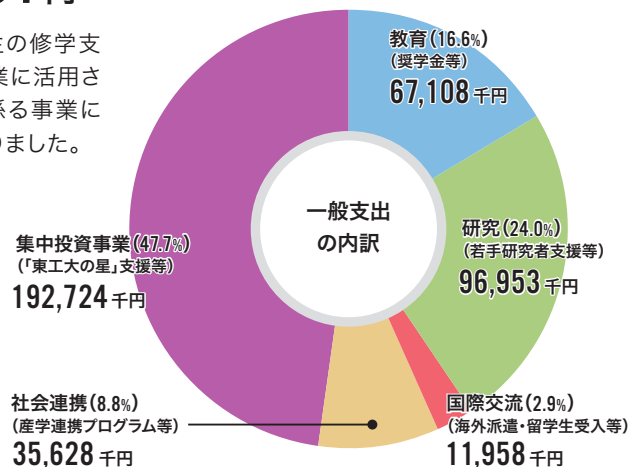
■ 一般支出

404,371,171 円

■ 特別事業

(新型コロナウイルス対応)

25,414,720 円



運用状況 47,710,288 円

東京工業大学基金について運用を行い、約4,800万円の運用益がありました。引き続き、きめ細やかに運用していく予定です。

基金残高

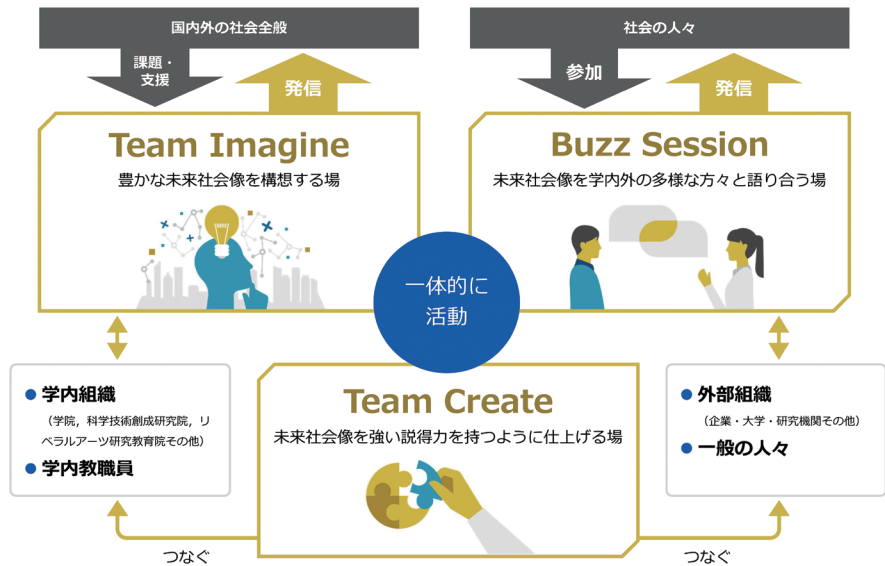
4,170,418,502 円

未来社会DESIGN機構 (DLab)



DLab

未来社会DESIGN機構（以下、DLab）は、東京工業大学が指定国立大学法人構想で掲げた目標「科学・技術の新たな可能性を掘り起こし、社会との対話の中で新時代を切り開く」の実現に向けた中核組織で、2018年9月に設置されました。「人々が望む未来社会とは何か」を、若者や企業、公的機関の方々なども含めた多様な人々と共に考える取組を行っています。DLabは、学内外の有識者を中心に豊かな未来社会像を構想する「Team Imagine」、一般参加者も含む多様な方々と語りあう場を作る「Buzz Session」、未来社会像の実現に強い説得力を持つように具現化に向けたシナリオを描く「Team Create」の3チームで構成されています。



Topic 1

「DLab Challenge 2022」

DLab Challenge（ディーラボ・チャレンジ）は、2020年度に設立された研究支援です。DLabが「未来社会像2020」として提示した、“TRANSCHALLENGE（トランスチャレンジ）社会”や、“24の未来シナリオ”の実現に必要な新しい学術分野創出に繋がる研究を、最長3年間、支援しています。2022年度は、3つの研究を採択いたしました。



詳細はこちら

研究テーマ	研究テーマ	研究テーマ
<p>総合知 東工大 未来学 環境工学 国際政治学 材料工学</p> <p>PFOS 社会課題 環境問題</p> <p>米軍基地がもたらす環境問題の解決に向けたPFOS処理技術の開発</p>	<p>Observation & Prediction Development & Implementation Sociologists (Interaction analysis) Collaborative Design Engineers (VR/SLP/BM)</p> <p>VR空間内での人々の体験共有の質を最大化する移動・位置制御技術とそれにより創出される人類の新たな相互行為実践様式の探求</p>	<p>被災者を取り残さない：宇宙からの眼で来たるべき大地震・大津波に備える超学際実践研究</p>

Topic 2

「DLab Dialog Day 2023 -未来社会のケアをデザインする」開催



詳細はこちら

「DLab Dialog Day」は、DLabの1年間の活動を紹介し、ありたい未来について社会と共に考えるイベントです。2023年1月28日「DLab Dialog Day 2023 - 未来社会のケアをデザインする」が、「シンポジウム」と「共創ワークショップ」の2部構成にて Taki Plaza を会場に3年ぶりの対面で開催されました。

■ 対面開催で活発な意見交換や議論にわいた「シンポジウム」

「シンポジウム」はオンラインでも配信され、来場者と合わせて約130人が参加。活動紹介に続き、多彩なスピーカーによるパネルトークや来場者との意見交換が行われました。

実際の制作物を掲示する形で行われた学生の発表や、登壇者と来場者の対話、プログラム終了後も議論に没頭する参加者など、オンラインのみでの開催となった昨年までとはひと味違う臨場感にあふれました。



4人が語り合うパネルトークの部
（「シンポジウム」より）

■ ユニークな未来社会も出現 活気にあふれた「共創ワークショップ」

「共創ワークショップ」にてオリエンテーション、キーノートスピーチに続いて行われたグループワークでは、東工大の益学長をはじめ、東工大との統合を予定する東京医科歯科大学の田中雄二郎学長を含め年齢や立場が異なる60人が参加し、対等な立場で共に未来社会のデザインに取り組みました。

随所で笑いが起こるなど、打ち解けた雰囲気の中で進められ、発表された未来像では、「ケアをエンターテインメントとして楽しめるシステム」「銭湯でつながる職場」といったユニークなものもあり、終始活気にあふれたイベントとなりました。



グループ作業に取り組む参加者たち
（「共創ワークショップ」より）



未来社会DESIGN機構（DLab）基金

未来を考える取組であるワークショップの運営や、未来社会像を実現するための研究活動への支援など、皆様のご寄附によってDLabの活動は、より幅広く展開しています。



DLab基金

卓越大学院 プログラム

東京工業大学が、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的に連携し、世界最高水準の教育力・研究力を結集して卓越した博士人材を育成する、修士博士5年一貫の大学院教育プログラムです。2019年1月に「物質・情報卓越教育院 (TAC-MI)」、2020年4月に「超スマート社会卓越教育院 (WISE-SSS)」、2020年12月に「エネルギー・情報卓越教育院 (ISE)」がスタートしました。

同プログラムは、主に多くの企業の皆様からのご支援により支えられています。



東京工業大学
物質・情報卓越教育院
Tokyo Tech Academy for
Convergence of Materials and Informatics



TAC-MI
ホームページ



超スマート社会卓越教育院
Tokyo Tech Academy for Super Smart Society



WISE-SSS
ホームページ



東京工業大学
エネルギー・情報卓越教育院
Tokyo Tech Academy of Energy and Informatics



ISE
ホームページ

■ 物質・情報卓越教育院 (TAC-MI)

「国際フォーラム」「未来社会サービス創出ワークショップ」開催

物質・情報卓越教育院 (以下、TAC-MI) は、2022年12月5日～9日に、学生の国際コミュニケーション力の向上を目的として「国際フォーラム」を、俯瞰力・リーダーシップ力の涵養を目的として「未来社会サービス創出ワークショップ」を、東京ベイ幕張ホール (千葉県千葉市) を会場に、連続して開催しました。

TAC-MIの登録学生による研究発表などが行われた「国際フォーラム」は、対面とZoomのハイブリッド形式で開催され、約120人が参加しました。また、「物質と情報で切り拓くAIと共存する社会」をテーマに行われた「未来社会サービス創出ワークショップ」には、TAC-MIの登録学生と海外の学生の計30人が参加しました。5日間に及ぶイベントは、参加学生同士が自身の研究やワークショップの課題について、教員を交えディスカッションし交流を深める良い機会となりました。



詳細はこちら
(国際フォーラム)



詳細はこちら
(ワークショップ)



12月5～7日開催「国際フォーラム」



12月8、9日開催「未来社会サービス創出ワークショップ」

女性活躍応援フォーラム

「理系+ (プラス) ～理系を超えたその先に～」開催



詳細はこちら

東京工業大学は中高生や高専生の理系進路選択を応援するため、2022年11月26日に女性活躍応援フォーラム「理系+ (プラス) ～理系を超えたその先に～」を、Taki Plazaを会場に対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

この女性活躍応援フォーラムは、社会課題のひとつである女性理工系人材の育成や裾野拡大を目的としており、今回が2回目の開催となります。当日会場には、中高生とその保護者など約100人が来場し満席となり、オンラインを含めて230人を超える参加となりました。理系進学にはどのような魅力があるのか、理系出身者の社会における現実とは、理系を超えた先に何が待っているのかなどについて、参加者と一緒に考える一日となりました。



フォーラムの様子



あいさつをする益学長



基調講演を行う田中教授

女性活躍応援基金

本学では、将来、社会を担う人材として、幅広いバックグラウンドを有する学生の“育成”に注力しており、未来を創る女性リーダー人材の育成にも積極的に取り組んでおります。

東京工業大学基金では、これまでも増して女子学生・女性研究者を応援するため、2019年に「女性活躍応援基金」を設立しました。本基金は、女子高校生に理工系の楽しさや東工大の良さを感じてもらいイベントの企画、女性研究者の増加と離職率低下を防ぐための制度や施設整備、さらには、国籍を問わず、育児や介護といった視点での支援を充実させるために活用させていただきます。皆様には、是非このチャレンジにご賛同いただき「女性活躍応援基金」へのご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。



女性活躍応援基金案内チラシ



女性活躍応援基金

教育

～卓越した教育研究活動により優秀な人材を社会に輩出するために～

奨学金の充実

70名 45,600千円

意欲と能力がある学生に、希望する教育を受けられるよう、本学独自の給付型奨学金制度を実施いたしました。

手島精一記念奨学金	8名
青木朗記念奨学金	6名
草間秀俊記念奨学金	3名
大隅良典記念奨学金	39名
三原正一記念奨学金 (女性活躍・海外留学)	8名
パラマウントベッド奨学金	2名
太陽誘電奨学金	4名

【感謝の声】

大隅良典記念奨学金

船橋 樹さん / 情報理工学院 学士課程1年



この度は、本奨学金の支援をいただき、ありがとうございます。私はまだこの学校に入学したばかりなので、まずは情報分野の基礎となる事柄を学んでいます。私の父は病気で働くことができず、進学の時期も姉と重なってしまったため、経済的に厳しい状況に立たされていました。しかし、本奨学金のおかげで、学費や生活費の助けとなり、自分の学びたいことに集中して学ぶことができる環境を整えることができました。これからも、この支援に込められた期待に沿えるよう、授業や研究に励み、「将来の日本を支える人材」になるべく努めてまいります。改めてご支援をくださった方々に心より感謝を申し上げます。

青木朗記念奨学金

東 知希さん / 環境・社会理工学院 修士課程1年



この度は青木朗記念奨学金に御採用いただきありがとうございます。本奨学金に採用されたおかげでアルバイトの時間を勉強・研究に充てることができ学業に専念できております。また、国際的な経験を積みたいという思いから今年の1月から3カ月間オーストリアにある国際原子力機関IAEAのインターンシップに参加しました。コロナの影響もあり慣れない環境での苦勞もありましたが、仕事では日々の勉強・研究の成果を発揮することができました。本奨学金のおかげで、国内外で多くの経験を積むことができました。国際機関での経験を活かし、将来リーダーとして国際的に活躍できる人材となれるよう引き続き努めてまいります。

課外活動支援 4,476千円

サークルでいきいきと活動する学生たちを応援するため、本学の学生らが運営する公認サークルの活動等に対し、支援を実施いたしました。



写真 左から、ロボット技術研究会 第8回「沖縄海洋ロボットコンペティション」での様子／管弦楽団 工大祭2022での演奏／サイクリング部サイクルサッカー班 全日本室内自転車競技選手権女子の部の様子

研究

～理工系のトップユニバーシティとして最先端の研究活動をリードするために～

「東工大の星」支援【STAR】 3名 20,000千円

将来、国家プロジェクトのテーマとなりうる研究を推進している若手研究者や、基礎的・基盤的領域で顕著な業績をあげている若手研究者に対し支援を実施いたしました。

【感謝の声】



2022年度「東工大の星」支援受賞者 北村 匡平 准教授 / リベラルアーツ研究教育院

2022年度「東工大の星」に選出いただき、大変光栄に存じます。私は現在、20世紀以降の有名性の変遷をメディア論やジェンダー論の視点から歴史的に探究し、新たな映像文化史を再構築したいと考えています。また、公園における遊具と子供のコミュニケーションを対象に、利他が生まれる空間・環境をフィールドワークによって解明するための調査を進めています。この場をお借りし、東工大基金の寄附者の皆様に心からお礼を申し上げます。

末松賞「デジタル技術の基礎と展開」支援 3名 484千円

将来の基盤技術としてのデジタル技術に関心を持った若手研究者の育成と、コンピュータ、ロボティクス、ネットワーク技術等の活用に関する研究に幅広い支援を実施いたしました。

【感謝の声】



末松賞「デジタル技術の基礎と展開」支援受賞者 相川 洋平 助教 / 科学技術創成研究院

光領域での信号処理により光電融合プロセッサを実現しようと日々研究に取り組んでおります。この度、光処理での論理回路というテーマにおいて末松賞に採択されました。ご支援の下で研究に励むなかで、新たな技術領域を切り拓くことができ、想定した性能を大きく改善することができました。当該研究が自身の主たるテーマになりつつある状況です。採択いただいたことを励みに一層推し進めていく所存です。この度のご支援に大変感謝いたします。

大隅良典基礎研究支援 2名 2,414千円

長期的な視点が必要な基礎研究分野における若手研究者支援を目的として、研究費の支援を実施いたしました。

【感謝の声】



大隅良典基礎研究支援受賞者 西早 辰一 助教 / 理学院

この度は大隅良典基礎研究支援に採択していただきまして厚く御礼申し上げます。本研究では、物質中の電子が質量ゼロの粒子として振る舞うトポロジカル半金属と呼ばれる物質群についての研究を行っています。特に、既存物質では実現し得ないエネルギー非散逸な電子やスピンの伝導現象の解明を目指しています。新規物質の物性開拓という非常に基礎的な研究ではありますが、有用な機能性が発見できれば、すぐにでも日常生活で用いる電子機器に応用される可能性を秘めています。本支援を励みに、社会に還元できる成果を目指して一層研究に励んでいく所存です。

異分野融合研究支援 2チーム 6名 3,000千円

学内における研究分野の多様性を生かした異分野融合研究を推進するため、東工大リサーチフェスティバル（Tokyo Tech Research Festival 2018, TTRF）などから生まれた分野を横断する研究チームに対する支援を実施いたしました。

あすなる研究奨励金 5名 4,150千円

「あすなる研究奨励金」は浅野康一名誉教授より「地道な基礎研究に対し、長く研究費を措置いただいたことで研究が花開いたことから、後進育成のため、基礎研究の支援に充ててほしい」と申し出があり、自身の研究成果の実用化により得た収益の一部を寄附いただき、本奨励金が設立されました。

理工学に関する基礎・基盤的研究（理学分野の研究だけではなく、成熟した工学分野における地道な研究や、流行にとらわれず長期的視点に立って新しい可能性に挑戦する研究、独創的であっても研究費が取りにくい工学分野の研究を含む。）における研究者に対して、研究費支援を行うものです。

社会連携

～優れた研究成果を還元し社会課題の解決を図るために～

産学連携プログラム等 7プログラム 61,265千円

- 人生100年時代の都市・インフラ学
- アストロバイオロジー
- データサイエンティスト・AI人材育成
- 未来を創る "Hybrid Innovation"
- MOLCURE・AIロボット合成生物学プログラム
- バイオ×バイオデジタル
ー バイオDX人材育成のためにー
- 未来社会DESIGN 機構 (DLab) 基金



データサイエンス・AI 全学教育機構 設置記念シンポジウムの様子

理科教育振興支援

16件 6,354千円

将来のものづくり人材の裾野拡大を促進するため、小・中・高校生を対象とした知的創造性を育む活動を支援いたしました。



放射線科学教室の様子

本学主催イベント支援

2件 1,869千円

本学が主催した、イベントを支援いたしました（スパコン2022、工大祭）。



工大祭2022の様子

国際交流

～国際的教育・研究環境の構築のために～

コロナ禍の中、厳しい状況ではありましたが、留学の機会（受入・派遣）を学生に提供するための支援を実施いたしました。

海外派遣支援

19名 4,160千円

超短期派遣プログラム、
キャンパス・アジアプログラム ほか

留学生受入支援

10名（新規3名 継続7名） 6,147千円

GSEP-G 奨学金、
スーパーグローバル大学創成支援事業特別奨学金

コロナ禍を受けた特別な対応として、右記の支援を実施いたしました。

国際交流(新型コロナ対応) 196名 7,715千円

留学生受入(水際対策)に係る経済的支援

海外同窓生との連携 (Tokyo Tech Alumni Ambassador)

東京工業大学の同窓生の強固なネットワークを構築し、本学への留学希望者に向けた積極的な情報提供 及び 本学と日本国外の機関との連携を強化するため、Tokyo Tech Alumni Ambassador 事業を実施しており、東工大基金としても海外同窓生との連携を進めております。本学の学士課程 又は 大学院課程の卒業後 又は 修了後15年以内で、日本国外を拠点として活躍されている方から選考の上、Tokyo Tech Alumni Ambassadorの称号を付与し、以下のような国際広報活動の支援を行っています。

1. 本学への入学を希望する留学生を対象とする広報活動
2. 外国大学等との国際連携の推進を目的とした広報活動
3. Tokyo Tech ANNEX 又は 海外オフィスにおける広報活動



その他の活動

いずれも、金融機関との連携により、皆様のお気持ち、思いを東京工業大学に託していただくプログラムとなっております。

「相続・遺贈セミナー」

2022年5月21日 及び 2023年1月20日に、相続・遺贈セミナーを開催しました。2回の開催で約30名のご参加を頂きました。セミナーでは、専門家による解説 及び 遺贈を通じた社会貢献等に係る講演のほか、専門家による個別相談会を行いました。



遺贈ホームページ

遺言信託業務のご紹介

本学は、ご自身の築き上げられた財産の遺贈を希望される方々のために、株式会社三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社、みずほ信託銀行株式会社 及び 三井住友信託銀行株式会社と、遺贈（遺言書による寄附）に係る遺言信託業務の紹介に関する協定を締結しております。加えて、ご自身に何かあった際に財産の一部を、本学を寄附先として、比較的手軽にお手続きいただける「遺言代用寄付信託」の取扱いもごさいます。

社会貢献寄付信託

本学における社会貢献活動を応援いただく取組として、三井住友信託銀行株式会社と信託を活用した新たな寄付プログラム「社会貢献寄付信託」に参画しています。本プログラムは、全国14大学と連携して取組む「医療支援寄付信託」の中で、医学部を持たない本学が医工連携の強みを生かし参画しているものです。

ご寄附いただいた方への謝意

感謝の集い

2022年11月2日、東京工業大学基金へのご支援いただいた方々を招き、感謝の意を表する「2022年度 感謝の集い」を3年ぶりの対面形式にて開催いたしました。ご寄附いただいた個人／企業（団体）の方々をはじめ、卒業・修了生、在学生のご家族、退職教職員 及び 学内関係者の約100名にご参加いただきました。



特別講演で講演する高橋准教授

カレンダーキャンペーンの実施

カレンダーキャンペーンは、主に新入生の保護者や卒業生を対象に寄附依頼を行い、キャンペーン期間中に一定額以上ご寄附をいただいた方に、特典として名前入り東京工業大学オリジナル卓上カレンダーを進呈いたしました。



オリジナル卓上カレンダー

「芳名刻印レンガ」の設置

個人30万円以上、法人100万円以上のご寄附をいただいた方には、芳名刻印レンガを大学施設内に設置いたします。

2022年度は、新たに72件の芳名刻印レンガを設置しました。



紺綬褒章の授与

個人500万円以上、法人1,000万円以上のご寄附をいただいた場合は、国からの紺綬褒章の授与の対象となります。

2022年度は、個人3名をご推薦しました。



東工大基金へのご支援のお願い

インターネットによるご寄附

東工大寄附サイトのweb申込フォームからお申込みください。

<https://www.titech.ac.jp/giving/>



東工大基金

で

検索

インターネット
募金

郵便局・銀行振込

東工大社会連携課までご連絡ください。必要書類をお送りします。



振込用紙申込

東京工業大学社会連携課

〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1

TEL : 03-5734-2415・2417

FAX : 03-5734-2485

MAIL : syaren@jim.titech.ac.jp



東工大基金